

(様式1)

学校番号 (小)・中 )

令和7年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立(西都台小)学校運営協議会長

<本年度の目標>

- 学校支援活動の充実、竹っ子サポーター(地域・保護者ボランティア)の拡大
- 地域や学校のよさ、課題を踏まえた教育活動や学校支援の充実。

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

⇒  ア よくできた  イ できた  ウ あまりできなかった  エ できなかった  
(理由)

○学校運営の基本方針を、学校側から丁寧に説明してもらったので、良い所や、もう少しこうすると良くなるなど、全員で話をすることができた。活発な意見交換の中に、学校や子供たちにとって有益な意見が多かった。

○それぞれの委員の発言に対して、学校からも、方針の考え方や具体的な取り組みについて説明があり、それに対して委員と学校がよりよい方向性を話し合うことができ、意義深い熟議となった。

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

⇒  ア よくできた  イ できた  ウ あまりできなかった  エ できなかった  
(理由)

○各委員が持つ地域人材の情報が、「竹っ子サポーター」の拡充や発掘につながった。

○学校行事の参加・協力に限らず、特技や知識を持つ地域人材をリスト化しておくことが有効である。また、学校が必要とする支援について、もう少し具体的に上げられ、協議や検討ができれば、より意味のある熟議になる。

○学校に必要な様々な支援活動について熟議しても、それを実現させるための施策や体制が不足している。

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

⇒  ア 充分に行った  イ 行った  ウ あまり行わなかった  エ 行わなかった  
(理由)

○「CSだよりを読んでいます」という声を聞くことが増えた。CSの活動についての理解がさらに深まるよう、引き続き保護者や地域に積極的に発信していきたい。

○学校ホームページで会議録等が発信されてはいるが、見ている人は少ないと感じる。保護者にも地域にも、もっと新たな方法で情報を発信する必要がある。

○教職員全員と協議会メンバーの互いの紹介や交流をさらに進め、情報共有に努めたい。

<評価項目4> 今年度の評価を踏まえた来年度の目標

○子供たちに地域への愛着を持たせることは、学校と地域が力を合わせて実現できる教育である。郷土の歴史や文化などに触れる・学ぶための具体的な機会について、協議会としても応援していく。

○学校支援活動のさらなる充実、竹っ子サポーター(地域・保護者ボランティア)の拡大に努めていく。